

## 施工前

2020年8月実施 23.4m 1人工4時間

冬場は、 $-10^{\circ}\text{C}$ を下回る寒冷地の石畳の目地の補修を行いました。

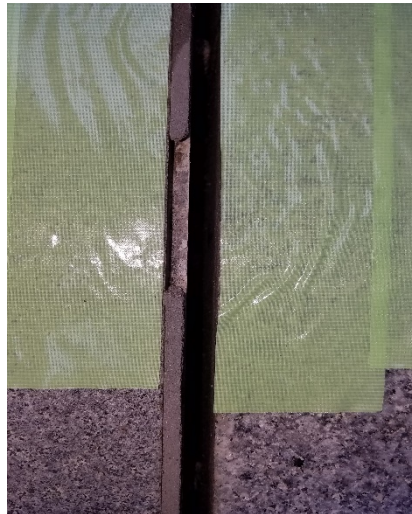
Eagle8は、非常に少量の材料を練ることができます。目地は、少量の材料で補修できますので、数十g単位の材料で、引き伸ばしたり注入が可能です。また、強固な接着力と不透水性を兼ね備えております。水で練って、練り込むだけです。練る方法も様々ですので、工夫次第で、大幅に工期も短縮出来ます。御影石での接着力のテストでは、御影石をEagle8で接着し、引きはが(せん断)しますと石が破壊されます。単に目地を埋めるのではなく、注入の深さによっては、敷石を一体化させる補修が可能ではないかと考えております。軒下より敷石の端に直接雨水が落ちておりますが、そのことで、雨水が回り込み沈下することも防げると考えております。

霜などによって再度損傷しないか、一冬を超えた時点で、状況のご報告を致したいと思います。



左 沈下による隙間、中 目地材破損、右 青色→部

## 施工中



目地の中を洗浄後、フロアで除去、テープで養生します。



1kgのEagle8-Qを袋に入れ、240gの水で手練しました。



袋の角を切って、絞り出し注しました。



料理用のヘラで押し込むように均しました。



37.2gのEagle8-Qを紙コップに入れ、材料重量比24%の水を投入し、料理用のミキサーの羽を1つにし練り上げました。



カップより流し込み、上の写真と同様に、ヘラで押し込むように均しました。

### 施工後



専用の工具がなくとも簡単に補修が可能です。  
新設後2年で劣化した従来の目地が、劣化なく維持できることを、補修部、非補修部で確認いたします。